平成 25 年度（2013 年度）

第 53 回大会

男子優勝：札幌日大　　女子優勝：札幌日大

【全道大会寸評】

第５３回となる北海道テニス選手権大会は、６月１２日から１４日の３日間の日程で、旭川花咲運動公園テニスコートで開催されました。

寒さに見舞われた昨年の釧路大会とは異なり、大会を通じて天候に恵まれましたが、気温が３０度程度まで上がり、軽い熱中症の症状が出た選手が数名見られるという、選手にとっては苛酷な大会となりました。今年も３日間に渡る大会は全て熱戦が繰り広げられ、試合の内容的にはとても熱い大会となりました。

今大会を通して、当番校の旭川東栄高校の教職員の方々や生徒のみなさんをはじめ、高体連旭川支部、旭川テニス協会、その他多くの方々のご尽力のおかげで、すばらしい大会になりましたことを、心から感謝申し上げます。

男子団体戦は５年連続で札幌日本大学高校が優勝し、女子団体戦も３年連続で札幌日本大学高校が優勝しました。今年は男女ともに戦力が充実しており、全国大会でも十分活躍が期待できると思われます。

男子ダブルスは第１シードの池添・徳光組（札幌日大）が順当に優勝しましたが、決勝まで勝ち上がった秋葉・高野組（函館ラ･サール）の健闘が印象的でした。

女子ダブルスは第１シードの丹野・平野組（札幌日大）が昨年に引き続き連覇の偉業を成し遂げました。個人戦ダブルスにおいても全国大会での活躍が期待できます。

男子シングルスも第１シードの池添克哉（札幌日大）が決勝まで他を寄せ付けない力を見せつけ、昨年に引き続いての連覇と、単・複・団体の三冠の偉業を成し遂げました。

女子シングルスも第１シードの丹野里佳子（札幌日大）が実力を発揮し単・複・団体の三冠の偉業を成し遂げました。

また、男女シングルスではともに函館支部から全国大会へ駒を進める選手が出るなど、昨年に続き道内各支部の選手の力の向上が感じられた大会となりました。

以上、各選手の全国高校総体での活躍を期待したいと思います。

【全国大会】

北部九州総体テニス競技は博多の森テニス競技場、春日公園テニスコートの２会場で行われた。連日３５度に及ぶ高温と高い湿度であったが、高校生のインターハイにかける熱い思いがあふれる素晴らしい大会であった。

男子団体戦では、札幌日大が１回戦で強豪校の東山（京都）と対戦、シングルスＮＯ１のエース対決では、池添が実力を十分に発揮、安定したストロークを武器に、８－１で接戦をものにしたが、ダブルス中野渡・中野組は善戦むなしく５－８で敗退、シングルスＮＯ２徳光も試合の流れをつかむことができず１－８で敗退した。上位進出のチャンスがあっただけに残念であった。

女子団体戦では、札幌日大が１回戦で仙台向山（宮城）に快勝した後、２回戦で共愛学園（群馬）にも接戦をものにした。３回戦では九州地区優勝の九州文化学園（長崎）と対戦、シングルスＮＯ１の丹野が敗退した後、ＮＯ２平野は中盤まで接戦に持ち込み、流れをつかみかけたが、最後は大事なポイントで相手のショットが冴え、５－８で敗退した。ダブルスの神田・山口組が終始リードしており、７－３での打ち切りとなっただけに、残念なベスト１６であった。

個人戦シングルスでは、北海道大会優勝者の男子の池添（札幌日大）、女子の丹野（札幌日大）に期待がかかったが、ともに２回戦で、池添は瀬戸内（広島）の選手のパワーの前に４－８、丹野も京都外大西の選手に６－８と惜敗した。男子ダブルスの池添・徳光組（札幌日大）は１回戦で名経大市邨（愛知）、２回戦で鳥取西の選手に快勝、３回戦で第１シード湘南工大附属選手と対戦、コンビネーションよく素晴らしい試合を展開したが、６－８と一歩届かずベスト１６となった。また、秋葉・高野組（函館ラ・サール）も１回戦で、ベスト４となった高松北（香川）の選手相手に互角の戦いをみせたが、５－８と一歩及ばなかった。第７シードで臨んだ女子ダブルスの丹野・平野組、１回戦では九州文化学園の選手に競り勝ったものの、２回戦で早稲田実業の選手に敗退、上位進出は果たせなかった。今大会、１、２年生の出場者も多く、今後の活躍に期待したい。

優勝のよろこび

札幌日本大学高等学校　主将　中野渡 季稀

僕たち札幌日本大学高等学校男子テニス部は、今回の優勝でインターハイ北海道予選の団体戦において５連覇を達成した。さらに今年は、男女の団体戦と個人戦単複を合わせて６冠の完全制覇を達成することができた。

今年のチームは３年生２人、２年生９人、１年生７人と下級生中心の若いチームであったが、勢いのある戦いができたと思う。

札幌支部予選から全道大会までシングルス１以外のオーダーが対戦相手に応じて流動的であったが、普段から様々なパターンで練習を行っていたので、本番でも全員が落ち着いて実力を発揮

することができた。高校最後の団体戦で、チームの勝利につながる試合をすることができたので、主将としての責任も少しは果たせたのではないかと思う。

顧問の我妻先生と皆川先生には、コートの内外を問わず様々な面でサポートをしていただき本当に感謝している。後輩たちは秋から新チームでの戦いが始まるが、さらに上を目指し頑張ってほしい。

優勝のよろこび　札幌日本大学高等学校　主将　丹野　里佳子

私たちは第５３回大会の団体戦で３連覇を達成しました。また、３年連続の男女アベック優勝を果たし本当にうれしく思います。

私たちのテニス部は普段からチームワークが良く、日々の練習にも真剣に取り組んできました。

今年は、３年生１人、２年生２人、１年生２人というメンバーで挑みましたが、１複２単で争われ私たち札幌日本大学高等学校女子テニス部は、る団体戦では、決勝まで誰ひとりセットを落とさず、準決勝で札幌清田を２－０で撃破。３面同時進行で始まった函館白百合との決勝戦ではシングルス２の平野が先勝し、シングルス１の丹野とダブルスの神田・山口組が同時にマッチポイントを迎え、打ち切りなしの３－０で劇的な勝利となりました。

私は最後の全道大会で個人戦の単複とあわせて３冠を成し遂げることができましたが、団体戦には個人戦とは違うプレッシャーがあります。この優勝は札幌日大高校テニス部の全員の力で勝ち取ったものであり、一生懸命応援してくれた部員のみんなには本当に感謝しています。また、先生やコーチのご指導と両親の支えがあって、私たちは真剣にテニスができました。３年間ありがとうございました。

全国高校総体［第 103 回全国高等学校テニス選手権大会］福岡県
（「吹きわたれ若人の風北部九州へ」2013 未来をつなぐ 北部九州総体）

８月１日～８日　　福岡県営春日公園テニスコート
東平尾公園博多の森テニス競技場

男子　個人戦シングルス　優勝　：　徳田　廉大（神奈川・湘南工大附）
女子　個人戦シングルス　優勝　：　牛島　里咲（長野・地球環境）